

<2020年1月23日発表>

自動運転バスの社会実装に向けて 中型自動運転バスの実証実験を行います

- 西日本鉄道(株)および西鉄バス北九州(株)は、経済産業省・国土交通省が行う「中型自動運転バスによる実証評価」の事業者に選定されたことを受け、将来的な自動運転バスの社会実装と公道走行を目指すべく、北九州エリアにおいて自動運転バスの実証実験に取り組みます。
- この取り組みは、自動運転バスの社会実装に向け、必要な技術や事業環境等を整備することを目的に行われるもので、当社は実証事業者として自動運転バスの運行業務や関係機関との調整、検証項目の立案、試験走行を通じた各種検証等の役割を担います。
- 近年、当社を含む多くのバス事業者が「バス運転士の不足」と「利用者減少に伴う採算悪化」という課題を抱える中、自動運転バスは、省人化や運行本数の増・運行時間帯の拡大などの面でバスの利便性向上に寄与するものと期待されています。当社は、将来的な自動運転バスの社会実装を見据え、本取り組みを通じて自動運転バスの運行に資する知見を蓄積してまいります。
- 実証実験は、西鉄バス北九州(株)が運行する路線バス「^{くさみ}朽網駅～北九州空港線」(約 10.5 km)と同じルートで行います。北九州空港と最寄り鉄道駅である JR 朽網駅を結ぶ当路線は、空港の二次交通として重要な路線であるほか、沿線には企業の工場をはじめ多くの事業所や施設が集積しており、地域住民や従業員の交通手段としての役割も担っています。また、当ルートは区間を通して概ね道路幅が広く交通量も少ないため、走行環境の面においても適していると考えられることから実験区間に選定されました。
- 実証実験は、本年 2 月に小型自動運転バスを用いる実験(プレ実証評価)と、本年 7 月以降に中型自動運転バスを用いる実験(実証評価)の計 2 回を実施します。プレ実証評価では、1 日 4 往復程度運行し、安全性の確認や諸課題の洗い出しを行い、その結果を踏まえて実証評価に臨みます。なお、実施にあたっては、関係機関との調整など、北九州市からサポートいただきながら進めてまいります。
- 西鉄グループでは、今後も持続可能な公共交通ネットワークの構築に向けて、自動運転技術をはじめとする先進技術の導入と事業化に向けた取り組みを行ってまいります。

■ 中型自動運転バス実証実験の概要(予定)

- 【実証期間】 プレ実証評価…2020年2月3日(月)～2月29日(土) のうちの17日間
実証評価 …2020年7月中旬～11月中旬(準備期間含む)
- 【路線】 朽網駅～北九州空港線 約10.5km
- 【車両】 <プレ実証評価>
導入台数:小型自動運転バス1台
車名:日野 ポンチョ
乗車定員:34人(座席11席、立席22席、運転席1席)
寸法:全長7.0m×全幅2.3m 全高3.1m
- <実証評価>
導入台数:中型自動運転バス1台
車名:いすゞ エルガミオ
乗車定員:54人(座席28席、立席25席、運転席1席)
※その他の仕様は未定
- 【運行便数】 1日4往復程度(運行時間帯:6時～21時)

- 【実証内容】 試験区間全体における安全かつスムーズな走行
日照、天候、交通量、GPS 感度などの走行環境変化への適応性
交差点信号情報提供システム(※)の実用性
※交差点信号情報提供システム…交差点の信号情報を、無線装置を通じて車両に送信するシステム
実証評価では、プレ実証評価での検証結果を踏まえ実証内容を追加いたします。

■ 関係者向けプレ実証評価オープニングセレモニーの概要

- 【開催日時・会場】 日時:2020年2月3日(月) 13:30～
会場:北九州空港イベント広場(北九州市小倉南区空港北町6番)
- 【プログラム】 主催者挨拶、来賓挨拶、テープカット 等

(参考)「朽網駅～北九州空港線」の概要

- 【運行会社】 西鉄バス北九州株式会社
- 【運行台数】 中型及び大型バス 計2台
- 【運行便数】 1日32往復
- 【運行経路】 朽網駅～南朽網～北九州臨空産業団地～R ホテルイン北九州エアポート
～トヨタ九州苅田工場前～東横イン前～北九州空港

本件に関するお問い合わせは、西鉄お客さまセンター(Tel:0570-00-1010)まで